

チーム 20S5 著「仕事ってこういうことだったのか - 先輩たちが教えてくれたこと - 」

かんき出版 2010年3月8日刊を読む

仕事ってこういうことだったのか - 先輩たちが教えてくれたこと -

1. 漆紫穂子さん(品川女子学院校長)

- (1) どんな決断にも後悔は残ります。それでも「こっちにしなきゃいけない」というときがあります。
- (2) いまないからと、あきらめることはありません。できないことは人をお願いしてもいいのでは...
- (3) 「自分はどうありたいのか」にいつも立ち返る。これが行動するときや判断するときの私の基準。
- (4) 「どうしてほしいか」ではなく「どうするか」。どんなときも、自分と向き合うようにしています。
- (5) 失敗したこと、劣等感を感じたこと、無気力だった時期、そういう経験は大事ですね。
- (6) 28歳までは学びの期間で、そこからがある程度、世の中に還元していける期間だと思う。
- (7) 「人はいつか死ぬ」ということを意識しだすと、今度は、「いかに生きるか」を意識しはじめるんです。

2. 木山啓子さん(JEN 事務局長)

- (1) 自己否定の期間が長かったので自立の大切さがよくわかる。
- (2) 相対評価を気にしすぎて、「人のミスは自分の得点」みたいな感覚はもたないで...
- (3) だめだめな私でも満点ですよ。いいことをしたり、考えたりしたら、あとは全部プラスなんです。
- (4) 曲がった木は放っておかれて、曲がったなりにすくすくと育って天寿を全うできる。
- (5) 不幸も永遠に続かないし、絶頂も永遠に続かない。不幸でも幸せでも、「いま」をいちばん味わう。

3. 熊谷正寿さん(GMO インターネット会長兼社長・グループ代表)

- (1) いまは苦しくても、将来こうなってやろうと、手帳のなかに夢を見た。
- (2) 夢を具体化・明確化して、どこへ行くにも手帳を持ち歩き、夢を数値化した。
- (3) 10年間積み上げてきたことが一夜にして...。一度だけ、自殺する夢を見ました。
- (4) 満足したら進歩しない。いい意味でのポジティブな欲求不満でいたほうがいい。
- (5) 「笑顔になってくれ」「笑顔になってくれ」「笑顔になってくれ」と、本気で思っている。

4. 古在豊樹さん(千葉大学前学長)

- (1) 評価されてないなんて焦ることはない。10年後、20年後、100年後に芽が出ることもある。

- (2) 一等になりたいという気持ちがないとエネルギーが出てこないのは、負担が大きい。
- (3) オランダで全財産を盗まれ、「生き物」のレベルにもどったら、自然と力が湧いてきた。
- (4) 「野球選手になりたい」「勉強で一番になりたい」具体的な夢には落とし穴がある。
- (5) 失敗経験をたくさん積むことが大事。次は前よりすこしよくなる。
- (6) 苦手なことも大事にしたほうがいい。苦手なことがあるおかげで、得意なことがわかるんだね。

5. 子安美知子さん(早稲田大学名誉教授)

- (1) いつがいちばん充足していたかなと考えると、「いまがいちばん充足しているんだ」と気づく。
- (2) どんな空腹でも着の身着のままでも希望があった。どんどんがんばったし、がんばったらそれが報われた。
- (3) 完全な自由がほしいと思った。でも、がむしゃらさのあとに空虚感が残った…。
- (4) いつの時代を生きていても、まじめにがむしゃらってことが大事なの。
- (5) 自分の欠点や弱点を克服するもっとも大事な方法は、自分自身の欠点や弱点をそのまま見ること。
- (6) 困難っていうもののなかには「意味」がある。それはね、自分の人生の課題。

6. 櫻井よしこさん(ジャーナリスト / JINF 理事長)

- (1) プレッシャーの前で、自信をもったり怯えたりしながらやってきたのが 20 代…。
- (2) お昼ご飯を食べるときも一生懸命食べなさい。
- (3) いろいろなことを考えていくうちに、「日本人って何だろう」というところに必ず行き着く。
- (4) 並の人間が頭一つ抜けていくためには、無我夢中で 100 パーセントの努力をすること。
- (5) 夢は必ずかなうんです。だから、ちやちな夢は絶対に描かないでほしい。

7. 澤田秀雄さん(H I S 会長)

- (1) 日本の常識も、外から見たらおかしいもの。そこにビジネスチャンスがあると思った。
- (2) 失敗したときほど元気にやる。ウソでもいいから楽しくやる。
- (3) 本を読むときは勉強だと思ったらつまらない。過去の失敗から学ぶつもりで読んでみる。
- (4) 一流をめざすと、必ず壁にぶつかる。だから準備と装備が変わってくる。
- (5) 自信が「ある」「なし」は関係ない。「ある」は「ない」からつくられる。

8. 島田精一さん(住宅金融支援機構理事長)

- (1) 誰にでも成果が生まれる四つの言葉。「前向きに、明るく、逃げず、知ったかぶりせず」。
- (2) こっそり上司への「不満ノート」をつけていた。文字にすると、事実を冷静に把握できるようになる。
- (3) 自分は何が得意か、何に強いかが、その差別化をビジネス人生 10 年間のうちにやっておきたい。
- (4) 人間と人間との関係をうまく保てる人が、幸せにいちばん近いと、ぼくは思います。

- (5) 上と喧嘩をしていいのは、自分の主張がフォア・ザ・カンパニーだという自信があるときだけ。
- (6) 人に何か前向きな変化を起こしたいと思ったら、まずは自分がハッピーじゃないとだめなんです。

9. 高野登さん(ザ・リッツ・カールトンホテル前日本支社長)

- (1) これが右脳人間の特徴だね。一流の国際的ホテルで働いている自分を想像できちゃうんですよ。
- (2) 来るものは自分の主体ではない。来たものに対して、自分がどういうチョイスをするかだ。
- (3) 徹底的にパクリつくすんですよ。すると、その人の血となり肉となるんだよね。
- (4) サービスを超える瞬間が見えるホテルマンと、見えないホテルマンがいるということ。
- (5) 知恵の勝負ができる人が、現実社会のなかでは次のリーダーになっていくんだらう。
- (6) 究極のいい言葉は感謝の言葉です。これ以上のいい言葉はないですよ。

10. 堤幸彦さん(映画監督/演出家)

- (1) 同じ流れに乗っていったら、船を漕ぐのがうまい人には絶対に勝てない。
- (2) ベンツに高級マンション、ゲームには勝ったけど、全然気持ちよくなかった。
- (3) だれも何もいわない寂しさにくらべれば、「わかってねえ、死んじまえ」といわれたほうがいい。
- (4) 世の中に過剰に期待しないということが、絶望しない最大のセーフガードだね。
- (5) ほんとうに信じられるものというのはね、外見の皮を全部とったあとに残るんだと思う。

11. 南部靖之さん(パソナグループ代表)

- (1) みんな落ちこぼれというけど、それは才能だよ。ぼくにいわせれば、優秀な落ちこぼれ。
- (2) 神様は、才能は平等に与えている。60歳近くになるとわかるんですよ。
- (3) 目標をもって日々暮らすのと、目標をもたずに暮らすのとでは、10年たつと大きく道が違ってくる。
- (4) 「夢は力なり」目標は具体的であればあるほどいい。
- (5) これからの5年間の志は、就職難の若者をできるだけたくさん支援すること。
- (6) 「迷ったらやる」リスクというのは、チャレンジだと思っている。

12. 浜口隆則さん(ビジネスバンク社長)

13. 村尾隆介さん(スターブランド共同経営者)

- (1) 「起業だ、経営だ」と肩肘張るより、ブランディングでビジネスはうまくいく。
- (2) かかわる人が幸せになる、そんな経営のゴールをめざす。
- (3) 社会貢献的なマインドが、人間としての成長を助ける。
- (4) つねに仮決めでもいいから、「こうなるんだらうな」と結論を出すことが大事。
- (5) 大きな約束を守るのは当たり前だけど、意外に、小さい約束事をおろそかにしがちなんですよ。
- (6) 強烈な自分のルールをもって、守っていく。こういう自分軸がないかぎり、人は集まってこない。

14. 原田泳幸さん(日本マクドナルド会長兼社長兼 CEO)

- (1) 正論が社会のなかで通るかという、そうじゃない。ものの言い方というのもあるしね。
- (2) 昔の人は、目先の数字だけで動いていない。人と人が仕事しているってところを原則として考えていた。
- (3) 3 ヶ年計画を紙 3 枚で説明しなければならない。これですべてを語るんですから、勉強になった。
- (4) 弱点が弱点じゃなくなるくらい、強いところをもっと発展させればいい。
- (5) 継続的に企業が伸びるためには、超優秀社員が成長の阻害要因になる場合がある。
- (6) いままで自分は何をしてきたんだろう。車も家も、ゴルフの会員権も全部売った。

15. 平澤創さん(フェイス社長)

- (1) チャンスというのはつねにめぐっている。それをつかめる状態にいるかどうか重要なんです。
- (2) 「努力」でも「苦労」でもない「生きる」という感覚。
- (3) 「私は」と、自分の意見や意思をもったほうがいい。一人称で考えて判断していかないと成長しない。
- (4) 世の中を上手に生きていく方法は、味方をふやすことじゃない、敵を減らすことだ。
- (5) 絶対に先輩の真似をするな。じっと観察して、いいところだけ「盗め」。
- (6) 自分で自分の可能性を決めてしまって、「ぼくには才能がない」というのが問題。

16. 松田公太さん(タリーズコーヒーインターナショナルファウンダー)

- (1) 自分がやらなかったらだめだよ、ほかの人は誰もできないよ。
- (2) 目的と目標をほんとうに意識して生きていれば、情報をキャッチするアンテナは自動的に立つ。
- (3) 私は何か大きな決断をしなくてはいけないときは、いつもきびしい道を選んでいるんです。
- (4) ほんとうに伝えたい日本の文化とは何だろうと考えると、「日本の心」だったりするんですよ。
- (5) 20 代はがむしゃらに仕事をする時期。来た仕事に関しては徹底的にやってみることです。

17. 吉川美代子さん(TBSアナウンサー)

- (1) どちらかを選ばなければならないというときに、なぜかいつも夢に近いほうを選んでいた。
- (2) 責任感があれば、途中で、「この程度でいいや」とはならない。
- (3) 自分軸がぶれないために必要なのは、知識と教養、それと想像力です。
- (4) 本業を果たしてもいけないのに、本業以外のライフワークだなんて甘い。
- (5) 今日よりは明日、今週より来週と思えば向上する。進歩できるかできないかのポイントです。

[コメント]

大学卒業直前の 5 人の大学 4 年生が執筆したインタビュー記録。青春の一時期に、人生の先輩に体当たりして仕事とは何かをインタビューしたもの。これから仕事に就く人にも、すでに仕事に就いている人にも、人生とは何か、勉強は何のためにするのかを考えている人にも参考になる人生の教科書。力作。ぜひ御一読を。

- 2010 年 3 月 3 日 林明夫記 -